

第153回 中材業務及び感染対策研究会 事業報告

研究会副会長 土井英史

(一般社団法人日本感染管理支援協会 代表理事)

皆さん。こんにちは。

さて、新型コロナウイルス感染症の「まん延防止等重点措置」の期間中ではありますが、医療機関は新型コロナウイルス感染症対応だけすれば良いわけもなく、通常業務の医療の質を損なってもいけませんので、当研究会の担う“滅菌周辺業務と感染対策のコラボレーション”を捉え研究会を開催いたしました。参加人数は、少なくなることも分かっていましたが、当研究会は後日 Web 配信をしていますので、その方々への情報発信が可能であることも踏まえ開催することとしました。

今回の内容を写真と共にコメントを記載して報告いたしますので是非ご覧いただけますと幸いです。



招請講演（逐次通訳）

アメリカとリアルタイムでつながります！（LIVE Web レクチャー）

2021年 IAHCSMM（米国中材の実践者の学会です）のトピックス

IAHCSMM 教育担当ディレクター ナタリー・リンド

この学会は、当研究会で幾度となくご紹介している学会であり、毎年、私は参加しております。その内容をトピックスとして当研究会で報告をしているのですが、ご存じのように新型コロナウイルス感染症の為にこの学会もバーチャル開催となっております。2020年は、私がこのIAHCSMMのバーチャルカンファレンスに参加して、その内容をトピックスとして報告させて



いただきましたが、2021年はHSPA（IAHCSMMより名称変更）バーチャルカンファレンスにも入ることができませんでしたので、私の長年の友人であり、HSPAの教育部長を務めるアメリカのナタリーさんをお願いして、当研究会としては初めての試みとなりますがZOOMでアメリカと繋ぎ『2021年 HSPAのトピック

ス』を“LIVE”による Web レクチャーしていただきました。内容は多岐に渡りますので詳細は記載できませんが、さすがにトピックスだけあって、それぞれをもっと詳細に聞きたい内容ばかりであり、また、この学会の研究課題についてもご紹介があり、これらはこれから日本でも是非とも取組んでいかなければならない興味深い内容で、会場からも質問も出て非常にアクティビティあるセッションとなりました。時差があるにも関わらず、アメリカと LIVE で繋いで講演していただけるというのは、研究会の当日参加される方々にとりましては、現地に行くことなくリアルタイムでご本人に質問できディスカッションできるメリットは大変大きいので、今後はさらに時差も考慮して、アメリカだけでなく、イギリス、ドイツなどとも繋いで、色々と参加者の皆様へ情報提供できれば良いなと思いました。

教育講演

コロナ禍でもいつも通りに行わなければならない感染対策
～基礎とテクノロジー～

シリーズ Part II 血流感染予防

I、カテーテル関連血流感染の基礎

一般社団法人日本感染管理支援協会 代表理事 土井英史



II、感染予防とテクノロジー

①輸液デバイスの固定（スタットロック）

(株)メディコン/日本ベクトン・ディッキンソン(株) MDS 事業部
クリニカルスペシャリスト 藤原彩子



②抗菌性カテーテル被覆・保護材（3 M™ テガダーム™ CHG ドレッシング）

スリーエム ジャパン(株) 医療用製品事業部
内藤真知子



③クロルヘキシジングルコン酸塩含浸スポンジドレッシング

（バイオパッチ® CHG 含浸スポンジドレッシング）

テレフレックスメディカルジャパン(株) Clinical and Medical Affairs
Clinical and Medical Affairs Director 山本綾



④閉鎖式システム/輸液ライン汚染防止デバイス(メリットデュアルキャップ)

メリットメディカル・ジャパン(株) IV事業本部マーケティング部
プロダクトマネージャー 鎌田 和也



この教育講演では、まさしく最初に記載したとおり新型コロナウイルス感染症に翻弄されて、日々の感染対策が“疎か”になってはいけないと言う意味も込めまして、前回から研究会としてシリーズで取組んでいるテーマです。そこで今回は『血流感染予防』を捉えました。このシリーズでは、まず感染対策の基礎のお話をし、そのサイトの感染を予防できる“テクノロジー”と、その商品をお持ちの企業の方々にお話していただく企画にしております。

基礎のお話はプログラム作成時、当研究会役員の地方独立行政法人りんくう総合医療センター 感染管理認定看護師 大野博美さんにお話していただく予定でしたが、病院の事情により急遽、私が代役を務めさせていただきますことになりました。また、企業の方々の色々な商品情報は、医療側として感染対策をする上で極めて重要なことであり、強いては患者さんにとっても有益でありますので、このような機会はとても大切であると考えております。

また、カテーテル関連血流感染予防ができるテクノロジーはここに記載しているものだけではありませんが、まずは今回記載しているテクノロジーについてご披露していただき、今後も他のテクノロジーについてご紹介していただければと思っております。それぞれの企業のテクノロジーについてご興味のある方は、各人で各企業へお問い合わせいただければと思います。

特別講演

これからの感染対策に組織として必要な10の提言

一般社団法人日本感染管理支援協会 代表理事 土井英史

最後に特別講演として、私から表題のお話をさせていただきました。

私は感染対策の仕事を20有余年、実践現場に主眼をおいて色々な病院の Infection Control Coordinator をさせていただき、また、同年数、欧米の感染対策を見続けて、これからの日本の感染対策に必要と思われる内容を10個に絞りお話させていただきました。これは、医院、クリニック以外の医療機関に必要と思われる内容であると思っています。その内容は、

1, 感染制御部(室)の設置 2, 従業員保健部(室)の設置 3, 環境サービス部(室)の設置 4, 価値分析部(室) 5, エンジニア部(室) 6, プールスタッフの確保 7, 物的資源の確保 8, コンピテ

ンシープログラム 9, ネットワークの構築 10, 市民教育 です。今回の新型コロナウイルス感染症のパンデミックで明らかになりましたが、いくら専門家を医療機関に配置しても、その仕事量と人的資源のアンバランスにより、日本の感染対策は残念ながら“形骸化”していると思われます。また、これは実践現場で真摯に取り組んでいる感染対策の専門家が悪いのではなく“システム崩壊”していることに起因する問題であると思っています。この問題に対して、既に欧米ではシステム化し実績をあげていることを参考に、日本の医療機関の“組織として”必要な10項目について若干の考察を加えお話させていただきました。

